

疫病退散・悪疫退散

## 暑気祓神楽の御案内

新型コロナウイルス感染拡大防止処置により、春の「花摘祭渡御行事」夏の「神幸祭宵宮祭」「本宮神輿渡御神事」は自粛致すことと成りました。

このような事態は近年例をみない事ではありますが、歴史を振り返りますと我々の遠い先祖達も、疱瘡や天然痘といった「疫病」に幾度となく苦しめられ、その都度神に祈りを捧げながら今日まで「命」を繋いで下さいました。現代に残る全国各地の神社祭礼・神事その大部分が「禊(みそぎ) 祓いの神事」即ち心身の罪穢れを祓い、日々健やかに生活(たつき)をおくるためのものであります。茅の輪をくぐり心身の罪・穢れを祓いやる「夏越しの大祓式」などはその最たるものです。

当社ではこの現状を鑑み、下記により疫病・悪疫退散「暑気祓神楽(しょきばらいかぐら)」を御奉仕申し上げます。ご家族お揃いでご参拝下さい。

記



日時：令和2年7月30日・31日・8月1日(3日間)

開始時間：○午前 10時・10時30分・11時・11時30分 ※(30分おきに奉仕)  
○午後 13時30分・14時・14時30分・15時・15時30分

受付：授与所 ※御神楽をお受けの皆様は当日授与所にてお申込み下さい。

場所：大鳥大社「第二祈祷殿」

初穂料：2,000円(お一人様・ご家族でも結構です)

撤下品：疫病・悪疫退散・家内安全「暑気祓御幣」

しょきばらいごへい  
「暑気祓御幣」

御幣の芯部である茅(かや)は水を浄化する特性をもつことから人の「罪・穢れ」をも浄化するとされ、古来より祓いの用具として用いられてきました。

また、御幣の緋色(ひいろ)には古くから魔除けや疫病退散の信仰があり、全国の社寺における祭典神事等の場で用いられている。

